

令和7年度 府中市立府中第五小学校学校経営報告

令和8年 3月15日

校長 松下 雄太

1 今年度の取組と自己評価

〈学校経営計画より〉

1 教育目標

平和を愛し、積極的に文化的な社会・国家の進展に寄与できる調和のとれた人格の育成を目指して、次の目標と、これを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。

- 健康で明るく 明るく健全な心と体をつくる
- だれとも仲よく 思いやりをもってすすんで協力する
- 自分から努力する 目標に向かって全力で実行する

2 目指す学校

「笑顔あふれる学校～『くすのき』のように、たくましく優しい五小の子～」

創立152年の歴史と伝統を受け継ぎながら、ふるさと五小に誇りをもち、人権尊重の精神を守り、世界に活躍し、社会に貢献する人間性豊かな五小の子を育てる。保護者、地域の信頼に応え、教育目標である知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指す。

(1) 子供たちが主役で、子供たちが第一の学校づくりを推進する。

子供たちが、仲よく生活し、目標をもって取り組む学校『明るく！仲よく！レッツゴー！』

- 子供たち一人一人を大切に见守る。
 - ・子供たちが安心して学び、落ち着いて過ごせる学校をつくる
(だれとも仲よく助け合う友達、話を真剣に聞いてくれる先生)
- 子供たちのよさや可能性を引き出す。
 - ・「やれば(成長)できる」と励まし、子供たちの主体性を育む。
(だれの失敗も笑わない友達、挑戦できる場面を与え励ます先生)

(2) 教職員が、子供たちのために協働する学校づくりを推進する。

教職員が一丸となって、子供たちの成長を支える学校『五小の子はみんなの子』

- 教職員が、チーム五小として、心を合わせて真摯に取り組む。
 - ・子供たちの心に寄り添い、保護者との連携に誠実に取り組む。
- 教職員が、チーム五小として、力を合わせて真剣に取り組む。
 - ・子供たちのために指導力を高め、よい授業をつくり、教育活動を発展させる。

(3) 保護者・地域と連携して、誇りに思う学校づくりを推進する。

伝統を大切にしながら、常に発展を続ける創造的な学校『ふるさとで育つ五小の子』

- 学校の役割(学力や体力の向上、豊かな情操の育成、規範意識の醸成など人格の形成)
- 家庭の役割(家族の思い出が子供の心の支え、愛情の中で育つことで人を大切に思う)
- 地域の役割(学びを地域で実践し社会貢献を学ぶ、心のふるさととして人生を歩む)

(1) 教育目標の取組と自己評価

①「主体的に学ぶ児童の育成に向けて、授業改善に取り組む」について

〈経営計画より〉

- ・「主体的・対話的で深い学び」のある授業を目指す。
- ・校内研究を中心に、「チーム五小」で授業改善に取り組む。
- ・研修を通して授業力を磨き、専門性を確立するよう自己研鑽に励む。
- ・基礎学力の定着を図る。
- ・五小スタンダードを意識し、学ぶ楽しさを味わわせる。(授業のユニバーサル化)
- ・外国語教育の充実を図る。
- ・読書活動の充実を図る。

〈取組と自己評価〉

全ての児童のために、よりよい授業をしようと全教員が授業改善に取り組み、成果と課題を把握することができた。プロセスとして、校長と副校長が、1・2学期に全教員の授業観察を行い、その後に指導助言を行った。通常学級担任24名、専科教員5名、特別支援学級担任8名の合計37名であるが、1時間の授業を観察し、事後に指導助言を行った。

1学期は、それぞれの教員の自主性で教科を決め、専門性を発揮できる得意な教科を観察した。全教員が、児童の主体性を向上させる手立てを工夫しており、素晴らしい部分も多くあるとともに、校長と副校長が様々な気づきを指導助言することができた。2学期は、特別な教科道徳に絞って、授業観察を行った。道徳授業の在り方について全担任に指導することができ、学校全体の統一感につなげることができた。その後に、全学年でスポット道徳(担任が同じ教材で、学年の他の学級も指導する形式)を行い、指導力と学年の児童理解力の向上につなげることができた。3学期の道徳授業地区公開講座で、その成果を発揮できたことも収穫である。校長も講演会で、地域・保護者に対して、この取組を発表し理解と協力を得ている。

児童の主体性を高める授業とは、児童が受け身になり、教師の指示を待つような一斉授業ではない。学習のめあてに向かって、児童一人一人が自分の考えをもち、友達との対話を通してその考えを深めていくことが大切である。そのために、授業の内容や構成、教師の発問、効果的な学び合いの場面、ファシリテーションに必要な間の取り方やテンポといった指導力の要素を校長と副校長が見取り、授業後に指導助言を行った。

授業力向上のためには、授業の実践や参観が大切である。若手の教員は、実績のある先輩教員から学ぶことも多いため、授業観察も、略案を作成し教員の参加を促した。また、日常的に教室後方のドアを開けて、開放的にし、短時間でも授業を学び合えるようにしている。本校の教員は、協調性があり、後輩のためには労を惜しまない寛容で豊かな人間性ある人材が多い。校内研究やOJT研修でも、学び合う教員集団としての本校の特徴が発揮されている。この強みを生かし、次年度も児童のために授業改善に取り組む。

次に基礎基本の定着についてである。全校児童が学期初めに、「東京ベーシックドリル(前学年)」に取り組んだ結果を、研究部が分析し、全教職員で共通理解を図り、指導方針を立てている。また、1～3年生で、月1回放課後の6校時に、家庭の了解を得て放課後残って担任が指導する「寺子屋教室」を行っている。今後も継続し、個に応じた手立てを行うとともに、

授業の延長としての家庭学習の充実を図る。

次年度の計画として、これまで述べた授業改善の方策の充実や全員参加型授業の取組の徹底、基礎学力の定着に向けた取組の効果検証と外国語教育と読書活動のさらなる充実について、意図的・計画的に方策を練る。同時に児童が、ICTを効果的に活用することで学びが深まることに、教職員も手ごたえを感じており、e-ポートフォリオを充実させ、児童の学びに向かう力を育成していく。本市の授業改善グランドデザインにある、「発見」「対話」「決定」「表現」の学習活動に沿って、教職員の指導力向上、児童の学習意欲の向上につなげたい。

最後に、人材活用面では、算数少人数指導と英語担当教員が配置でき、教育人材やデジタル教科書を効果的に活用して成果を上げたことや、全学年算数で、少人数指導やTT指導のための教員や支援員を配置できたこと、さらには理科専科による専門的な指導、1～3年生での音楽講師、市学習支援員を活用した授業補助など、児童の学力の定着に取り組むことができた。今後も継続し児童を育成していく。

②「だれとも仲よく助け合う児童の育成に向けて、全教職員の団結力の向上を図る」について

〈経営計画より〉

- ・特別活動の充実を図る。
- ・生活指導の充実を図る。

〈取組と自己評価〉

特別活動を通して、主体的に考え行動する児童を育成すること、学級経営を基盤とし、学級活動や児童会活動、学校行事を充実させ、教育目標の達成を目指すことを目標に掲げ取り組んだ。

本校では、全学年で学級編成を行っているため、1学期は、自分や学級の目標を明確にする話し合い活動などを通して、児童同士、児童と教師のよりよい人間関係を構築することを重視した。5月に、「五小まつり」を実施し、学級経営の基盤づくりを行った。1, 2年生は、積極的に楽しみながら、新しい友達や先生に慣れることができた。3, 4年生は、学級の出し物の成功を目指して、自分の役割を果たし意欲的に行動することができた。5, 6年生は、よりよい学級づくりのために、これまで取り組んできた経験を活かし、主体的に自分ができることを考え行動する力を身につけた。

2学期は、1学期に築いた基盤の上に、展覧会、運動会、連合学芸会といった学校行事を計画した。児童が主体的に企画運営に参画し、学年の仲間と協力しながら、成功を目指して取り組む活動となった。3学期は、1年間の特別活動の成果を発揮できるような学校行事を計画し、自分の成長を振り返り、進級進学に希望をもつことができた。

宿泊学習では、6月に5年生のわくわく自然教室と仲よしの宿泊学習、10月に6年生の日光林間学校を実施した。いずれも、共同生活を通して、基本的な生活習慣や人間関係力、規範意識や課題解決能力などの資質・能力を育成した。特に6年生では、小学校生活最後の思い出を成功させようと、全員が温かい言葉を使って生活することができ、大きな自信につながった。

また、毎月ロング昼休みを設定し、仲よし学級の児童と一緒に遊びを通して交流を深めることができた。誰もが公平な共生社会の実現に向けて、心に種をまく活動となっている。他にも、委員会活動、クラブ活動、たてわり班活動では、毎回の活動で、児童に目標をもたせ、実施後に振り返りと次回の見通しをもたせることで、主体的な活動につなげることができた。地域での清掃活動など、ボランティア活動を推進し、感謝の思いをもつことや、人の役に立つことの喜びを知る機会を作った。

安心安全な学校づくりへの取組として、今年度、「いじめ暴力ゼロ」を目標に掲げ、全校朝会での講話を通して、児童の心に語りかけてきた。「人の心はガラス玉」「言霊」「言葉の青、黄、赤信号」などの講話は、ふれあい月間に必ず行い、定着を図った。また戦後80年として、長崎の被爆クスノキをテーマに講話を行い、平和について深く考える機会をつくった。毎朝、交通安全指導を行いつつ、たくさんの児童とあいさつを交わし、休み時間は校庭に出て、全児童を掌握するよう努め、問題の未然防止に取り組んできた。その場で気になったことは、常に教職員と共有している。

また、教職員は、毎朝教室や廊下、昇降口で児童を温かく迎えている。教職員には、人権尊重教育を徹底し、互いを尊重し、思いやる温かい人間関係を構築するような指導を行うように日々助言している。さらに、校務を改善し、児童と教職員が関わる時間を増やし、問題の未然防止、早期発見、早期解決に取り組んだ。

学校生活の中で、友達とのかかわり合いから生じる日常的な衝突は、社会性を伸ばすプロセスでもあり、問題の解決を通して、相手の気持ちを考える力を身に付け、より良い人間関係を作るきっかけでもある。しかし、解決の仕方が不十分な場合は、いじめにつながる可能性が高いため、映像を見るように事実確認を行い、必ず先手で保護者の協力を得るように全教員に周知した。また、子供たちには、「困ったら先生に相談すること」を常に伝えるとともに、毎週の心の天気予報や年間3回のふれあい月間のアンケートを確実に実施し、いじめの未然防止に全力を挙げてきた。

今後も、問題行動の未然防止と、確実な早期解決に向けて、担任のみならず、専科教員や特別支援学級教員、講師や支援員などすべての教職員が、「五小の子は、みんなの子」の共通理解のもと、児童理解を深めていく。また、「いじめ防止対策基本方針」(HPに掲載)に基づき、組織的に問題に対応していく。現在いじめの事案はないが、日常的な児童同士のトラブルや、個別の対応事案は度々発生する。また、SNSによるトラブルは、発見することが難しく、保護者と連携した指導が必要であり、引き続ききめ細かく対応していく。

不登校及び不登校傾向の児童については、学級担任と特別支援コーディネーター、生活指導主任、支援員などと連携し、管理職と情報を共有しながら組織的に対応している。オンラインによる発信や、「サポートルーム」での支援のほか、スクール・カウンセラーや他機関を介して家庭と連携するなど対応している。現在継続しているケースもあり、組織的な取組を粘り強く行っていく。

③「子供たちの健康の維持、体力の向上を図る」について

〈経営計画より〉

・体力の向上を図り、健康的な生活習慣を身に付ける児童を育成する。

〈取組と自己評価〉

日常的に芝生校庭での外遊びを奨励し、運動に親しみ、体力を高め、健康的な生活習慣を身に付ける児童の育成に取り組んだ。体育の授業では、運動量を確保し、体力向上を図った。また、なわとび旬間を計画運営し、府中ロープチャレンジを活用し、学級経営に生かした。CS主催の遊びの会を実施して、地域スポーツ団体と連携した取組を推進した。タグラグビー大会のフォーリスカップなど、地域スポーツ大会への児童の積極的な参加を呼びかけ、運動好きな児童を育成することができた。

今年度も、昨年引き続き猛暑の夏となり6～8月の平均気温が平年よりも2.36度高く、観測史上最高になった。昨年度は、WGBT 指数が基準を超えたため、水泳指導を実施できない日が多くあったが、今年度は、府中市教育委員会の方針を受け、水泳学習の時期を早めた。本校では、5月中旬からの実施としたため、7月までに水泳の時数を確保することができた。夏季休業日前には、5年生を対象に着衣水泳を行い、水の事故の防止に努めた。

運動会は11月中旬に実施した。熱中症の心配はないものの、この時期にインフルエンザが流行した。また、運動に適した時期は過ぎているので、寒さを懸念しながらの実施となった。当日は、温かくなり好天に恵まれたため、無事に実施することができたが、次年度は10月下旬に行う計画を立てている。

また、運動会は、児童が思い切り体を動かし躍動する姿や、大声で応援する姿が、保護者や地域の方々に喜ばれる大きな行事である。発達段階に応じて、運動の特性に触れた楽しさを味わわせることをねらいにし、体育学習の発表の場であること、教育活動の集大成としての児童の姿を、保護者・地域に発信し信頼を得ることを目標とした。昨年度の学校内外からの要望を分析し、今年度は、走の運動に加えて、高学年での表現運動を復活させ、5年生はソーラン節、6年生は集団演技を発表することができた。学校のリーダーである高学年児童が、協力して作り上げた迫力ある集団行動を、全校児童の前で発表することができ、今後の学校生活での自信につなげることができた。運動会後に、校庭のテントの撤収をお手伝いしてくださる卒業生や保護者の方がとても多く、心から感謝申し上げたい。また、次年度は前日に実施した高学年リレーを、当日に組み入れるための工夫を考えている。

体育的行事については、長なわを使った3分間の8の字跳びで記録を取る「府中ロープチャレンジ」に参加するなど、運動の日常化に取り組んだ。児童は、学級や自己の目標に向かって主体的に取り組み、体力を高めている。

今後も、授業では運動量を確保して、運動の特性に応じた楽しさを味わわせるための授業改善に取り組む。また外遊びを推奨するため、授業の終了時刻を守り、休み時間を保障していく。来年度は、体育の授業改善や体育的活動のマネジメントをさらに充実させ、児童が主体的に、体力向上に向けて取り組めるように組織的に運営する。

④「地域の学校としてコミュニティスクールを推進する」について

〈経営計画より〉

- ・学校運営協議会(CS)と協働して、児童の教育活動の充実を図る。
- ・「かんきょう市民の会」「本宿府中囃子保存会」「よつばの会」と連携して教育活動を推進する。
- ・地域農家ご協力いただき、学校園での野菜栽培や稲作学習を行い、体験を通して学ぶ。
- ・「府中PFS」「ひな草の会」と連携して花いっぱいプロジェクトを実施する。
- ・「愛鳥モデル校」として野鳥に親しむ。
- ・「芝生管理組織」を中心に、スポーツ団体と連携して芝生管理を行う。
- ・児童の登下校の見守りの「西府エリアささえ愛の会」に感謝する気持ちを育てる。
- ・西府文化センター、青少対十地区、青少対四地区の活動に、積極的にかかわる。
- ・地域のまつり、市の大会や作文、標語、書写コンクールなどに参加し健全育成を図る。
- ・五小ジュニアスポーツ団体との連携を図り、児童の活躍を表彰する。
- ・学校だよりやHPを通じて、保護者や地域の方々に、積極的に教育活動を発信する。

〈取組と自己評価〉

学校運営協議会(CS)と協働した教育活動として、「五小防災訓練」「地域安全マップ作り」「遊びの会」を実施することができた。「五小防災訓練」は、4月下旬の土曜授業日に設定し、学年別に全校児童が防災について学ぶすばらしい機会となった。「遊びの会」は、5月中旬の土曜休日に実施し、青少対十地区、五小ジュニアスポーツ団体と連携した。雨天となったが、約200名の児童が集まり、様々な遊びを通して、児童同士や地域の方々と親交を深めることができた。「地域安全マップ作り」は、4年生の活動である。2月初旬の土曜授業日に、近くに住んでいる子供たちが20グループに分かれて、CS 委員、PTA 本部、保護者の皆様と一緒に近隣を歩いて危険な場所を確認した。地域の方の協力を得て、途中の保育園や商店、役所などでインタビューをし、学びを深めることができた。3月初旬に3年生と地域保護者の皆様に発表会を行う。

2年生の生活科単元「町たんけん」では、近隣の商店、役所、農園などたくさんの場所を訪ね、インタビューなどを通して学びを深めることができた。3年生では、駅前のスーパーマーケットを見学させていただいた。5年生では、隣接する企業を訪問し、見学させていただいた。6年生のキャリア教育では、近隣のカフェ店の店長様にも、お話をいただく機会を得た。今年度1月に開催した「道徳授業地区公開講座」の講演会では、同カフェ店のご協力で、コーヒーをいただきながら講演会を開催することができた。また、CS 委員長様、PTA 会長様、店長様にご挨拶をいただくことができた。参加者も100名となり、学校の様子を広く発信した。

3年生が社会科見学として、CS 委員の方が所属する消防団台14分団の施設を見学し、消防団の活動を学ぶことができた。実際に消防服を着用させてくださり、よい体験となった。また3年生は、「NPO法人府中かんきょう市民の会」とも協働している。年間3回お越しいただき、季節ごとに府中崖線を観察した。「草花」「樹木」「昆虫」のそれぞれのグループに分かれて、担当の方が丁寧にご指導くださった。4年生は、「本宿府中囃子保存会」と連携し、お祭りで披露されるお囃子を鑑賞して、地域の歴史や伝統文化について学ぶことができた。実際に太鼓をたたかせてもらうなど、体験を通してふるさと府中を愛する心を育て、府中っ子の誇りや喜びを感じ

じられる教育活動となった。

また、地域農家の澤井行雄さんにご協力いただき、3年生、仲よし学級による学校園での野菜栽培、5年生による郊外の水田での稲作活動、西府文化センター隣の農園を利用して2年生の野菜栽培活動を行った。季節ごとの様々な野菜を収穫する喜びや、日本の伝統文化である稲作の良さについて、体験を通して学ぶことができた。他にも、読書活動では、全学年で、「よつばの会」と連携して、お話の会を実施し、本の楽しさに触れる機会をつくることができた。

さらに自然環境について学ぶ機会として、本校は昭和44年から都の「愛鳥モデル校」に指定され、野鳥に親しむ活動を推進しており、今年度は、府中かんきょう市民の会の皆様にご協力をいただいて、バードウォッチングクラブが意欲的に活動した。他にも、「府中PFS」の方の協力を得て、ゴーヤ栽培による環境教育や花を育てる活動を通して、命の大切さに気付かせる花いっぱいプロジェクトを実施することができた。「ひな草の会」の皆様にも、正門前の植栽を整えていただき、栽培委員会の活動をより一層充実させることができた。

地域連携としては、熊野神社古墳祭りに1年生が、ぬり絵コンクールと合唱で参加したほか、青少対十地区委員会の音楽発表会に4年生が、青少対四地区委員会の音楽発表会に5年生が合唱発表を行った。地域のお祭りや、市のタグラグビー大会、自転車競技会などの大会や、科学研究・作文・標語・書写コンクールなど様々な分野に、児童が積極的に参加し、自己の学びを深めるとともに、地域とともに健全育成を図ることができた。

施設環境面では、芝生管理業者の指導の下、「芝生管理組織」を中心に、五小ファイブファイターズや本宿蹴球団、FF ミラクルファイターズと連携した芝生管理を行い、良好な学習環境を維持することができた。安全管理面からは、児童の登下校の見守りに「西府エリアささえ愛の会」のご協力をいただき、交通安全にご尽力いただいた。明るく元気に挨拶できる児童を、ほめていただき、地域の方に感謝の気持ちを育成する機会になっている。

最後に、学校公開は、毎学期に実施し、多くの保護者・地域の皆様に参加いただくことができた。前述の道徳授業地区公開講座では、「五小の教育を語る会」として、校長が道徳をテーマに教育活動を発表した。このような学校の教育活動は、学校だよりやHPスマート連絡帳などを通じて、保護者や地域の方々に、積極的に発信することができた。HPの閲覧数は、目標の85000件に到達する見込みである。

全ての教育活動は、地域や保護者の皆様のご理解とご協力をいただいて行うことができていることに、心から感謝申し上げます。今後も、CS委員、地域・保護者の皆様の声を真摯に受けとめ、教育活動に生かし、連携強化を図っていく。

⑤「近隣の中学校との小中連携を推進する」について

〈経営計画より〉

- ・小中連携をしている府中第十中と、近隣の府中第四中と連携した教育活動を推進するほか、地域の幼稚園、保育園との交流活動などを通して緩やかな接続を図る。
- ・小中連携コーディネーターを中心に、年間3回の小中連携の日を充実させる。

〈取組と自己評価〉

府中市教育委員会の施策を受けて、本校では府中第十中学校と小中連携を行っている。

年間3回小中連携の日に、計画的に研修会を実施した。今年度は、小中互いの授業を参観し、協議会で議論しながら、各教科を中心に発達段階に応じた指導方法や指導技術の向上に向けた共通理解を図ることができた。また、特別支援学級は、児童が主に進学する府中第四中学校と小中連携を行っている。ここでも共通理解や情報交換を行い、安定した小中の接続を図っている。

次年度は、授業改善の方向性やICT活用の実践、共通項目の多い生活指導の充実や主体性を発揮させる特別活動、特別支援教育の推進や体力向上に向けた取組の共通理解を図る方向で、伊藤校長先生や両校の小中連携コーディネーターと計画している。

また、中学校の職場体験や、運動会の児童管理など児童生徒がかかわる場面の創出や、府中第十中学校の音楽科教員による6年生への出張授業など、強い協力体制を整えている。次年度も、9年間の学びと育ちの連続性を見据えながら実践を積み重ねていく。

⑥「府中第五小学校の教育力の強化」について

特に次年度、強化を図る項目を以下に上げる。

(1)CS校として、地域と連携した教育活動の推進を図る。

○CS3大行事の充実 ○毎学期の学校公開、学校行事の参画 ○児童保護者紹介

(2)意図的・計画的に交流学习を推進し、誰とも公平に、仲よくできる心を育てる。

○ブロック学年会、理解教育の充実 ○年間行事計画の徹底 ○主幹会議での確認

(3)児童理解を中心にした温かな学年、学級をつくるために校務改善を図る。

○会議の精選 ○ICTの活用による校務改善

(4)教科担任、交換授業、スポット道徳など、学年で授業を行う教育活動を推進する。

○スポット道徳の充実 ○学年内での教科担任や交換授業の推進

(5)授業をオープンにし、教員同士が自由に授業を参観し学び合う学校にする。

○授業観察の充実 ○多様なOJTへの取組 ○校内研究の講師招聘

(6)接遇意識をもち、社会人としての公法上の振る舞いと良識ある社会判断をもつ。

○教育公務員としての自覚 ○品性と教養 ○サービス事故ゼロへの高い意識

(7)報告連絡相談の徹底、チームワークで、明るい学校をつくる。

○未然防止、早期対応、早期解決 ○あいさつの率先垂範 ○チーム五小

(2) 予算活用の取組と自己評価

① 府中市「学校経営支援予算」について

配当額 6,441,380円(昨年度6,109,000円)	執行率88%見込
○学習支援員2名(1・2年算数指導補助)配当割合約30%	
○学校図書館支援員1名(図書室の整理整頓、担任指導補助)配当割合約10%	
○エデュケーション・アシスタント1名(学級支援)配当額1,543,680円	
○サポートルーム支援員配当額1,440,500円	

〈取組と自己評価〉

算数TT指導は、1・2年生で実施した。指導員が、学習の積み残しがないよう担任の補助的業務を行い、学力の向上を図った。学校図書館支援員は、図書指導での担任の補助や図書管理、環境整理を行った。また、担任が学習で必要としている資料等を提供する活動を行い、年間を通して計画的に学習を支援した。

生活指導支援員は、人材確保が困難であった。児童の基本的な生活習慣の定着のために、児童に寄り添う支援を行った。支援を必要としている児童のいる学級に随時配置したほか、全校的な視野で、困っている児童に声をかけるなど、きめ細やかに対応した。

エデュケーション・アシスタントは、特別に支援を必要とする児童のサポートを行った。サポートルーム支援員は、サポートルームにおいて、個別に学習支援を行った。今後も児童の気持ちに近い支援員を配置し成果を上げていく。

② 府中市「副校長等校務改善支援事業予算」について

配当額 2,145,780円	執行率100%見込
○校務改善支援3名 配当割合約100%	
○業務内容	
・副校長事務補佐・校舎職員室等環境整備・諸資料整理(ファイリング)	
・学習支援員予算事務・諸調査報告事務	
・教科書事務・転入転出事務・印刷事務 ほか	

〈取組と自己評価〉

今年度も引き続き、本校に長く勤務している支援員に、副校長や教員の業務を助けていただいた。それにより、副校長の校内巡視や児童への指導、教員の人材育成にかかる時間を確保できた。様々な印刷業務、教職員や支援員の出退勤管理、多岐にわたる資料の整理などを担当していただくことにより、副校長や教員の事務時間を大きく軽減し、児童や保護者への対応に取り組む時間が捻出できた。教員の働き方改革を推進し、教材研究と児童理解のための時間を確保することができた。

③ 「未来へつなぐ府中 2020 レガシー予算」について

配当額 100,000円

執行率100%見込

【内訳】

○講師謝礼(英語講師・琴講師) 60,000円

○活動備品 40,000円

〈取組と自己評価〉

持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力を育成する「未来へつなぐ府中 2020 レガシー」
として、昨年度に引き続き今年度も取り組むこととなった。本校では、豊かな国際感覚を育むため
に、英語学習に力を入れて取り組むほか、日本の伝統文化に触れ、芸術を学ぶ授業に生かす。
その他にも、府中の歴史について調べ学習を行ったり、稲作の体験活動を行ったりして、歴史・
文化・伝統を引き継ごうとする心を育んだ。

④ 東京都「学校と家庭の連携推進事業予算」について

配当額 383,040円

執行率87%見込

【内訳】

○支援員 334,035円

○スーパーバイザー 0円

〈取組と自己評価〉

学校に気持ちが向かない児童の送迎や家庭訪問、学校生活の中で友達とのかかわりに困り
感をもつ児童、授業中に集中力が継続できない児童に寄り添い、きめ細かい声かけやアドバイス
などの支援を行ってきた。危機管理上、予算確保は必要である。次年度も、家庭との連携を強化
して、ともに児童に寄り添うことに力を入れたい。

また、今後はスーパーバイザーとして、スクール・カウンセラーに依頼し、心理学の専門的な立
場から、教職員への指導や保護者に向けた講演をいただく予定である。

以上